

萩まちじゅう博物館

～市民が再発見する地域の魅力～

山口県 萩市
NPO萩まちじゅう博物館

山本明日美

歴史的遺産の保存・活用のあゆみ

昭和35年(1960) 萩市文化財保護条例
昭和42年(1967) 史跡萩を愛する会発足
歴史的佇まいへの保存意識
昭和47年(1972) 萩市歴史的景観保存条例

大正11年(1922) 松下村塾を史跡に指定
昭和26年(1951) 萩城跡を史跡に指定

昭和51年(1976) 堀内地区・平安古地区を重伝建地区に選定
平成13年(2001) 浜崎地区を重伝建地区に選定

歴史的遺産の保存・活用のあゆみ

昭和10年(1935) 萩史蹟産業大博覧会開催
→史跡保存と顕彰の動き

昭和45年(1970) 国鉄「ディスカバー・ジャパン」キャンペーン開始
→萩が美しい町並みの観光地としてクローズアップ

昭和47年(1972) 雑誌『an・an』『日本の旅特集』に萩が登場

転換期 1990年代～2000年代はじめ

- 観光客数の減少昭和50年(1975)ピーク
- 高齢化、産業の衰退
- 学生による景観資源調査
- 歴史文化と調和する景観形成
史跡整備×道路整備
- まちづくり総合支援事業
市民参加型のまちづくり
- 新博物館(萩博物館)の整備
郷土博物館からの発展
- 市町村合併平成17年(2005)
- ...etc.

萩まちじゅう博物館開館までの流れ

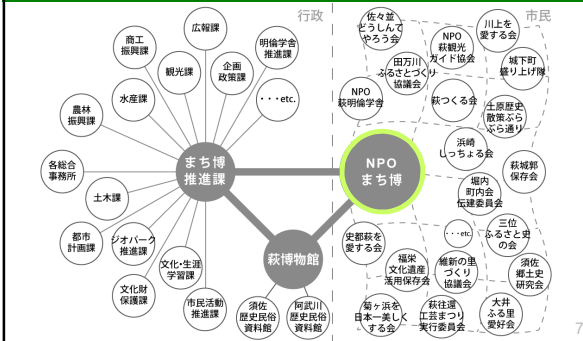
- 萩まちじゅう博物館整備検討委員会が発足
萩まちじゅう博物館構想の策定
(平成15年10月29日)
- 萩まちじゅう博物館条例の施行
(平成16年4月1日)
- NPO萩まちじゅう博物館の認証
(平成16年9月16日)
- 萩博物館・萩まちじゅう博物館の開館
(平成16年11月11日)
- 萩まちじゅう博物館基本計画・
行動計画策定(平成17年3月)

まちじゅうが屋根のない広い博物館

萩博物館=まちじゅうへの出発点

明木市の町並み
萩の川
福家の樹田

協働のイメージ



NPO萩まちじゅう博物館

- 設立:平成16年6月 会員数:205名(H30.12現在)
- まち博を市民レベルで推進
- まち博のコア:萩博物館を年中無休で運営
- 萩博物館の学芸活動サポート



まち博を市民レベルで推進



まち博のコア:萩博物館を年中無休で運営



萩博物館の学芸活動サポート



市民主体の「おたから再発見」

萩の物語記録事業

- まちじゅうにある歴史や文化の物語や高齢者の方のまちの記憶を中心に掘り起こし、記録することで後世に継承する
- 市民が調査員となり、地域の古老から話を聞きだし、文章化→冊子にまとめる

聞き取り調査の様子



まちじゅう博物館文化遺産活用事業

- ❖ 文化庁の補助で平成25年度からスタート
文化芸術振興費補助金
H25～文化遺産を活かした地域活性化事業
H29～文化遺産総合活用推進事業
- ❖ 地域のおたからを市民が再発見
- ❖ 「萩のおたから」として市民が推薦・認定
- ❖ データベースで公開、まちづくりや観光に活用
- ❖ 未来に引き継ぐため、守り、育て、活かす

事業のコンセプト

- ❖ 「おたから」を継承する意識を持つ
- ❖ 現代の暮らしの中で生かす・活かす
- ❖ おたからを互いに認め合う
- ❖ 何が地域のおたからなのかを知る



現地調査の様子

調査後の情報整理の様子

おたから総会の様子

地域のおたから(文化遺産)の定義

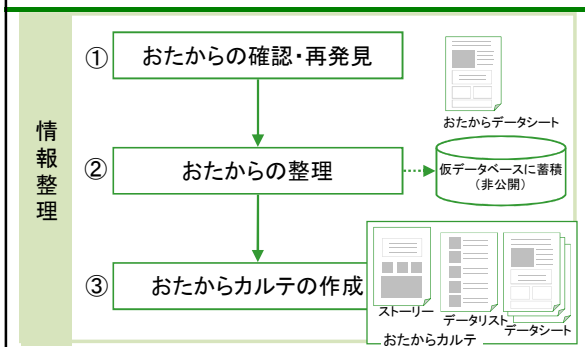
地域の歴史や文化、自然や民俗等につわるストーリーと、それを証拠づけるモノやコト

- 地域らしさを作り出しているモノやコト
- 地域のことを物語る上で欠かせないモノやコト
- 地域住民が、将来にわたって地域・地区のたからとして、大切に守り伝えていきたいと思うモノやコト

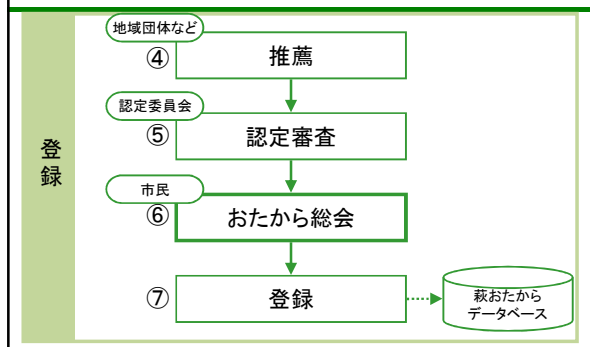
事業計画

- 合併した町村単位など地域的なまとまり毎に、
現地調査、おたからカルテ、マップ作成、
地域交流イベント・再発見ツアー等の企画・実施
- 平成25年度：浜崎、旧松本村、むつみ、明木、佐々並
 - 平成26年度：堀内、土原、川上、福栄、三見
 - 平成27年度：藍場川、笠山、須佐、田万川、大井
 - 平成28年度：椿、大島 ※大井、三見のおたからマップ作成
 - 平成29年度：江向、相島 ※浜崎のおたからマップ作成
 - 平成30年度：山田、見島
 - 平成31年度～33年度：市内全域、横断的なテーマ

事業のプロセス:情報整理

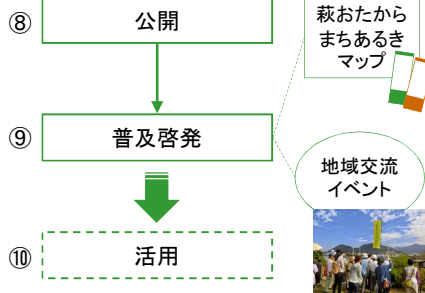


事業のプロセス:登録



事業のプロセス: 普及啓発・活用

普及啓発・活用



おたからカルテ

おたからカルテ(ファイル)



地域おたから まち歩きマップ

- 共通フォーマットで統一、色や表紙絵で地域性
- 地域のおたからを中心とした見どころ、まち歩きコースなどをイラストマップ化
- 通常の観光パンフにはない地域の歴史や文化のストーリーを掲載



22

地域交流イベント・再発見ツアー

- 地域住民自らが企画、案内役
- おたから紹介、まち歩き、特産品の紹介
- H25～30の6年間で計28回開催、613人参加



その地域らしさが表われた風景を見る

地元のガイドが地域の歴史を語る

暮末の志士が歩いた道をたどる

23

地域交流イベント・再発見ツアー



地域の特産品であるゆずの収穫体験をする

通常の観光スポットではないエリアも案内

世界遺産の資産を地元の古老の案内で見学する

課題…ツアープログラムの観光商品化

- 年1回程度の単発実施にとどまらず、来訪者が気軽に参加申し込みできるプログラムにすること
- 地域を元気にし、賑わいを取り戻すこと
- 経済面で効果をもたらす取組につなげること

24

地域の魅力を自ら再発見することの重要性

- 日々の生活の中で無意識に継承されてきたものを、改めて見直してその価値を顕在化させ、大切さを所有者や関係者に啓発する
- 文化資源の調査を地域住民自らが担当することで、その文化資源に新たな愛着が生まれ、自らの手で次の世代へ継承していく動機づけを引き起こす
- 専門家さえも知らなかった地域の歴史を解明する新たな発見につながる

25

まち博のサテライトの姿

- 来訪者が気軽に立ち寄れるサテライト拠点施設がある
- サテライト(地域博物館)のおたからを解説する情報展示・実物展示がある
- 地元住民によるインタープリテーション(ガイド活動、おもてなし活動)がある

26

浜崎サテライト

- 浜崎伝建地区の中心部にある2軒の伝統的建造物を「浜崎町並み交流館」として活用
- 施設内に「浜崎博物館」を設置し、「浜崎の職」「浜崎の生活」というテーマに沿って展示
- 地元「浜崎しっちゃん会」のメンバーによるおもてなし活動(町並みガイドツアー、施設での対応)



佐々並サテライト

- 江戸時代の主要な街道「萩往還」の宿場町佐々並市伝建地区の中心部にある1軒の伝統的建造物を交流施設「萩往還おもてなし茶屋」として公開
- 佐々並全体の紹介をする「佐々並マイスター」を育成
- 地元「佐々並どうしてやろう会」のメンバーによるおもてなし活動(町並みガイド、施設での対応)



これからのキーワード

- 広報、プロモーション、デザイン、クリエイティブ
- 活用の見える化、体験プログラム化、商品化
- 施設活用×経済活動(ビジネス、地域おこし)
- 価値の担保…モニタリング、見守りのしくみ
- 目標としての「指定」「認定」「登録」の重要性
- 地域コミュニティ×市民有志のハイブリッド
- ハード整備×ソフト整備の両輪
- 「タテ割り」から「ヨコつながり」へ
- シルバー世代×ソーシャル世代の組み合わせ

34

